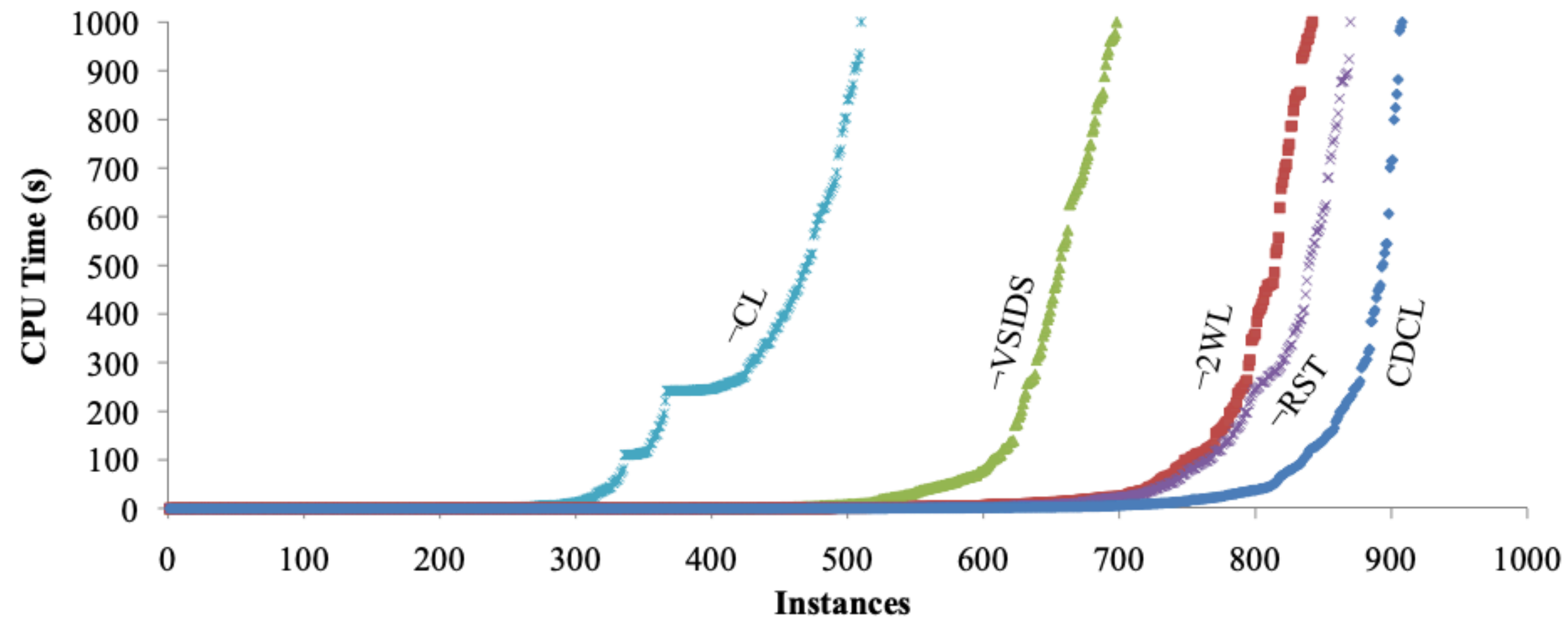


# CDCL の速さ



-CL が DPLL で、プレーンな CDCL が -VSIDS

実装上の工夫を加えると、さらに高速に！

# CDCL がする枝刈り

- 単位伝播 (Unit propagation)
  - 単位節 ( $l$ ) が存在するとき、リテラル  $l$  を真とする変数の割り当てを自動的に行うこと
- 学習節 (learnt clause)
  - 矛盾が生じたとき、その原因となったリテラルの真偽の割り当て  $(l_1 \wedge \dots \wedge l_n)$  の否定  $(\neg l_1 \vee \dots \vee \neg l_n)$  を学習する。
  - 少なくとも学習節を満たす必要があることがわかる